

【1 Day for Others】

1 Day for Others – まちへ出よう

2011年度にスタートさせた「1 Day for Others – まちへ出よう」は、本学の教育理念である“Do for Others”を実践しているイベントとして2年目を迎えた。ボランティア活動、NPO・NGO、社会起業家、企業による社会貢献活動について学ぶ機会を提供し、1日インターン（実習）を通して社会や地域の仕組み、および課題を知るプログラムである。1年生を中心に大学の外へ一斉に飛び出して、「ボランティア」「NPO・NGO・社会起業家」「企業CSR」の3つのコースの希望プログラムに参加する。一歩踏み出すことで地域社会への関心が生まれる、社会を見つめる力が養成される、人との関わりが優しい心を育てるなど得るものが大きいことに気づかされる。

昨年度は東日本大震災の影響で開催を秋学期にシフトさせたが、今年度はできるだけ早い時期に新入生に新しい世界に飛び込んでもらおうと春学期に開催した。また、昨年度のプログラム数は23で募集人員約300名であったが、今年度はさらに拡大してプログラム数48で約700名の募集をかけたところ、プログラムのほとんどの枠が早々に決まり、関心の高さがうかがえた。

昨年までエントリーが低調であった「ボランティアコース」も、今年度は快調な滑り出しをみせて、3つのコースの席が均等に埋まっていった。窓口対応で感じることだが、入学後に初めてボランティアをしてみようという学生は少なくない。それらの学生の要望に応えたのが周辺地域でのプログラムであり、土と親しめるものから子どもの見守りまで楽しめるラインナップであった。さらに普段は関わりのもてないユニセフのイベントやグループホームでのボランティア体験などの多様なプログラムを用意することで、より多くの学生が興味を示し参加につながったといえる。

「NPO・NGO・社会起業家」コースは環境、障がい者、国際、教育、こども、福祉などをキーワードとして様々な団体の取組みを紹介した。工場見学やイベントを通して運営している団体のミッションや活動を知る、ソーシャルビジネス事業を体験する、NPO体験を通して社会人から貴重な話を聞く、紛争や災害など苦しんでいる人々の支援を考える等、多くの題材を前に体験し学ぶ場を与えられた。

「企業CSR」コースはバラエティに富んだプログラムで、大手企業から地域の優良企業まで様々な業界を取り上げた。本業を通じての社会貢献を実施する企業、障がい者雇用を積極的に行っている企業、企業活動そのものがCSRに結びついている企業など、CSR (corporate social responsibility) についての入門的なものから学びを深められるものまで用意し多くの学生が興味をもって参加した。このプログラムの中にある旅行会社のスタディーツアーのプランニングでは、1 Day をきっかけに学生のチームが立ち上がった。旅行会社のサポートをいただきながら、明学生のオリジナルツアーとして彼らの手でどのような企画が生まれるのか今から楽しみである。

当企画は前述のように実施時期を春学期にシフトしたため、昨年度の1 Day が終わる間もなく次の準備に入り忙殺された。昨年度の倍の定員を設けたために既存プログラムに加えて新しい受入先の発掘と

交渉、リーダー学生の確保と育成、参加学生のエントリー方法、広報活動などの改善に時間を要した。
メールでのやり取りは2,350件におよんだ。

開催日： 2012年6月16日（土）を中心に実施
一部プログラムは以下で開催。
5月12日、30日
6月2日、3日、9日、10日、12日、13日、14日、15日、
16日、18日、20日、27日、30日
7月14日
プログラム数：48（プログラム内容は47ページ参照）
参加者数： 参加学生507名、リーダー学生56名 合計563名

春学期実施は多くの学生の参加が見込まれる一方で受入側の企業・団体では組織改編や人事異動があり、1 Dayの趣旨に賛同し熱心にかかわってくださった担当者が不在となり、プログラムが不成立に終わったケースもあった。全てがスムーズであったとはいえないが、当初目標としたプログラムを組むことができて胸をなで下ろした。

課題として残ったのが、主に「参加学生の申し込み方法」と「当日のキャンセル」の二点である。「申込方法」は学生ポータルサイトのエントリー管理システムの利用に加えて申込書の2段階構成で行った。しかし、申込書提出をもって完了することの周知が徹底されず、未提出者学生への督促電話に追われた。キャンセル待ちの繰り上げなどエントリー管理を利用するメリットはあったものの簡単にはいかなかった。学生はポータルサイト（ポータルサイト）の掲載文書を簡単に読み流してしまう傾向にあるため、周知方法にインパクトをもたせる工夫をすると共に応募方法もシンプルでなくてはならないと痛感し検討を進めている。二点目の「当日のキャンセル」は、受入先とリーダー学生の引率に影響が出た。用意された当日のプログラムが予定通り行われずに、受入側と参加学生も困惑したことであろう。当日連絡をしない学生の非常識な振る舞いにリーダー学生が腹を立てたのは言うまでもない。参加学生のモチベーションの低下も考えられ、キャンセルに歯止めをかけなければ良い結果は生まれない。キャンセルをなくすための方策は、事前に顔合わせをしておくことだとリーダー学生は実感している。プログラムの打ち合わせや学習会などを通して学生同志でコミュニケーションを図っておくことで、一体感も生まれ、当日のプログラムに喜んで参加してくれるに違いない。次年度は工夫をしたい。

このプログラムに欠かせない存在としてのリーダー学生について触れておく。昨年度と同様に各プログラムを一人ないしは複数名が担当する。役割は実施当日までのスケジュール管理と調整、受入れ先と

協議をしながらのプログラム内容の確定、当日の参加学生の引率が主であった。実施当日は参加学生と共に活動にも取り組み楽しめたとの報告が寄せられた。今回、多くの学生がリーダーを経験したいと手を挙げてくれたことは我々の励みにもなった。このプログラムの意義を感じ何かやってみたいと思う学生の期待に応えたい。同時に彼らの糧になるようなプログラムを提供し成長してもらうことが望まれる。今回の報告書は学生の声の多くを届けたいと考え、以下中段に掲載することとした。なお、当報告書以外に参加者の生の声を「感想文集」として作成しているので参考にしてほしい。2013年度は創立150周年を迎える。この取組のプログラムが価値あるものとして定着し、内外に今まで以上の関心を示してもらい、より多くの学生が参加してくれることで全学的なイベントに発展していくことを願っている。最後になるが、このイベントを開催するにあたり、趣旨に賛同して受け入れてくださった企業、団体の皆さまにお礼を申し上げる。

(中山)



献血の協力を呼びかける学生
受入先：日本赤十字社 神奈川県支部



UN Women ショップで販売を手伝う学生
受入先：UN Women よこはま



異国料理作りに取り組むこどもと学生
受入先：神奈川県ユニセフ協会



高齢者にハンドマッサージをする学生
受入先：THE BODY SHOP

【学生の参加動機】（参加申込書より一部抜粋）

私の出身地は東北地方の小さな町です。若い人はあまりおらず高齢者が多くを占めています。商店街はいわゆる「シャッター街」と呼ばれるものであり、商店街にあるべき活気が見られないのが現状です。去年に震災を経験しさらにその問題は深刻化したと見受けられます。それを受けて私は自分を育ててくれた町、そして地域住民の方々に恩返しをするために地域復興を考えています。子供から高齢者までの多くの人々が町の行事に参加し、商店街を始めとして町に以前のような活気を取り戻したいと強く思います。そのためにこの活動に参加し、商店街を見直すことを自分の目で見て考え、そこから得たことで復興するときのヒントをつかむことができればよいなと考えました。（国際学科 2年 女）

「寿町」という独特の雰囲気を持つ街に住む子供たちがどのような育ってきたのか、現代の社会問題と向き合いながら子供たちと接してみたいと思っています。このような体験は保育士にならない限り出来ない体験なので貴重だと思います。子供たちと一緒に楽しみたいです。（国際学科 1年 女）

プログラムの紹介を積極的にしてもらえたこと、そしてこれまで他人との交流を意識的に避け、またボランティア活動に対して消極的であった自分を変えたいと思い、まずは第一歩として子どもたちとの交流をしたいと思っています。（消費情報環境法学科 1年 男）

私が環境ビジネスに興味を持ったのは、東日本大震災でのボランティアがきっかけです。その際、仮設トイレを使用したのですが、そのトイレがなんとバイオトイレだったのです。においも全くせず、驚きの気持ちと同時に、人にも環境にも優しいことにとっても感動しました。もともと自然が大好きで環境保全などに関わりたいたいと思っていましたが、漠然すぎて何をしたらいいのかがわかりませんでした。このプログラムに応募したのは、エコビジネスについて知り、もっと環境のためには何ができるのかを具体化するチャンスではないかと思ったからです。（経営学科 3年 女）

一人では無力な私たちが、「世界のために出来る事」を考え、見つけるということに大きな意義を感じました。そして、たとえ答えが見つからなくとも、深く考えたことが、今後の大学生活に良い影響を与えるのではないかと考えました。（社会福祉学科 1年 女）

小学生のころ、『種まく子どもたち』という長期入院をしている子どもたちによる本を読みました。今でもとてもよく印象に残っていて、「かわいそうと思わないでほしい」という言葉は特に心に響いたのを覚えています。大学生になった今、何が出来るのか考えてみたいです。（法律学科 2年 女）

【参加者の声】

リーダー学生のアンケートより

●リーダー学生になって気付いたこと・学んだこと

- ・受け入れ先も自分たちを歓迎してくださり、非常にスムーズに進んだ。様々な施設を訪問し、出会いも多かった。
- ・ひとりひとりの学生が意識を持って参加していたので、自ら仕事を見つける姿がよく見られた。
- ・社会問題について考えさせられ、新たな視点を議論に織り交ぜていくことができた。参加学生は発言も非常に多く、また素晴らしいアイデアも生まれたので、学生にとっても受入先の方にとっても非常に刺激あるプログラムになったと思う。
- ・物販の際はそれぞれが自分の役割に徹し、スムーズにコミュニケーションをとることができた。講演の際にはどのように障がい者に寄り添っているのかがよく理解でき、自分の持っていた既成概念が良い意味で覆された。
- ・上級生の参加が多く、質疑応答の場面ではリードして発言してくれた。
- ・受け入れ先の方とお話しをしていく上で、ボランティアの計画以外にも、社会のしくみを教えて頂いたり将来のことを相談にのってもらったり、個人的にもとても勉強になった。
- ・打ち合わせや事前学習を通して、基本的な社会的マナーを身につけられた。仲間をまとめ、計画を進めてゆくことの楽しさも実感できた。気配りや、一歩ひいて周りを見渡せる冷静さが必要。
- ・人を動かすことの大変さ、企画をやり遂げたときの達成感を感じた。当日だけではなく企画段階からかわるべきだと思った。
- ・人に新しい事を伝えるために動けるということは楽しいことだと感じた。ぜひ1, 2年生のうちからできると楽しいだろうなと思った。
- ・「大学生の私に何ができるのだろうか。」と戸惑い、「失礼にあたらなにか。」と心配したときもあったが、自分の考えを素直に話すことはとても大事なのだと気付いた。
- ・相手先のやり取りや趣旨を要約して話すなど、話す力が学べたように思う。
- ・学校の外部の方と接する機会は新鮮で、これから社会に出ていくにあたってそうした機会が増えることを考えると非常に貴重なものとなった。
- ・社会人に向けてのマナー・礼儀、約束・時間を守ることの大切さを学んだ。
- ・正しい敬語や言葉遣いを意識するようになった。分からないことは、辞書で調べてから使うことを繰り返したかったので、以前より、目上の人へのメールがスムーズに送れるようになったと感じる。
- ・企業への相談方法の対応など「経験」として学ぶことは多かった。
- ・1日だけのボランティア企画だが、それだけでなく今後につなげられるように何をしたらいいかなど勉強になった。

参加学生のアンケートより

●プログラム内容について

- ・子供が苦手だったが、関わってみると自分のところがけ次第で仲良くなれた。
- ・看板作りやカレー作りを通して障害をもった方とコミュニケーションがとれた。
- ・農家の方の貴重な話を聞けたし、畑でどのような作業が必要なのかよくわかった。
- ・福祉・介護の現場を体験できて良かった。とても良い機会だった。
- ・ユニセフ（活動・食料問題・モルディブやネパール）についてよくわかった。
- ・企業の構造・スタイル・特徴などを知って就職活動に役立った。
- ・廃油からリサイクルした商品を自分も使うことができ、よりエコに関心が深まった。
- ・国際交流というと大きすぎて自分では何もできないと思っていたが、主体的になればできることがたくさんあると思った。
- ・日本と世界の「幸せ」についての比較など多角的な視点で学ぶことができた。
- ・グループディスカッションが楽しく、新たな考え方や知識に出会えた。
- ・企業が行っている CSR について現場を通して具体的に知ることができた。

●全体を通して気づいた点

- ・最後にありがとうと言われるとすごく気持ちが良くて、ボランティアは素敵だと思った。
- ・震災のことを笑顔で話されている姿を見て、強くて前向きだと感じた。
- ・少しずつ世界を変えていこうとしている人がたくさんいることに気付けた。
- ・ボランティアは受け入れ側にも負担がかかるのに、親切に学ぶ場を提供してくれてありがたい。
- ・一生懸命行って失敗したことを責める人はいないし、褒められることの嬉しさに気づいた。
- ・障がい者というハンデがありつつも、就労意欲を高く持ち活動しているのが印象的。
- ・自分と年齢の違う人たちと関わるには相手の思考や立場を考えて行動する必要がある。
- ・本当に楽しく活動でき、時間があっという間に過ぎていた。NHK 前の活動の呼び込みでもエコ活動をみんなに知らせることができ、大変良い機会だと思った。
- ・同世代にもボランティア活動について深く考えている人がたくさんいると知って感心した。
- ・同じような志を持った学生と交流をもって、意識が高まった。
- ・CSR の重要性・さまざまな概要を具体的に知ることができた。
- ・目の前の見知らぬ相手と会話をひとつのツール（きっかけ）を通して歩み寄れるのはとても良い。
- ・人と触れ合うことの楽しさ、人間関係の上手な作り方などを手に入れるチャンスだと思った。
- ・ボランティアは単に人を助けることではなく、地域の改善の為に貢献していることもわかった。
- ・フェアトレードの仕事をしている人と関わることで、自分の将来を考えることにもつながった。
- ・自分では思いつかないようなアイデアを聞けて、ディスカッションは大切だと思った。

【プログラムリスト】

1. ボランティアコース

	企業および団体名	プログラム名	実施日	募集人数
1	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	子どもと遊ぼう！	9・16日	各4
2	藤棚新聞	商店街を見つめ直す・横浜・藤棚地区商店街-	10日	20
3	ことぶき福祉作業所	寿町を知らう！	15日	10
4	横浜 YMCA ワークサポートセンター「パン工房 Ange」	Angeでボランティア体験～カレーを作ろう～	16日	15
5	宗教法人 善了寺	善了寺デイサービス 還る家ともに	16日	5
6	大木農園株式会社	農園ボランティア	16日	20
7	見沼田んぼ福祉農園	見沼田んぼで農園体験☆	7月14日	10
8	明治学院大学学生サポートセンター	みんなでかんがえよう“キャンパスデザイン”in 横浜校舎	16日	20
9	UN Women よこはま	戸塚→→→国連へ？	16日	7
10	ことぶき学童保育	横浜・寿町での学童保育	16日	20
11	世田谷区立特別養護老人ホーム 芦花ホーム	芦花ホームでの一日福祉体験	16日	6
12	神奈川県ユニセフ協会	世界の言葉を交えながら、世界の料理をつくろう ～守りたい・こども未来プロジェクト～	16日	10
13	神奈川県ユニセフ協会	「第7回食育推進全国大会」のブース出展	16日	10
14	(福) 社の会 中野地域ケアプラザ	グループホームでボランティア活動	16日	10
15	竹尾企画	土と親しみ 食を楽しむ ～大学で小学生と農作業・料理～	16日	10
16	NPO 法人地域生活センター	障害者グループホームでの生活支援	16日	4
17	港区立御田小学校 PTA ヒマラヤスギの会	学校行事の手伝い・登下校のバトロール	16日	20

2. NPO・NGO・社会企業家コース

	企業および団体名	プログラム名	実施日	募集人数
1	グローバルヴィレッジ株式会社	「世界フェアトレード・デー 5/12」イベントのお手伝い	5月12日	20
2	株式会社ユーズ	エコ活動がビジネスに!? 天ぷら油で社会を変えるビジネスに触れよう!	2日	5
3	NPO 法人 ばれっと	知的障がい者支援と一緒に創作活動をしよう	10日	12
4	NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	元子ども兵士ミシェルと語ろう～僕たちにできること～	12日	20
5	NPO 法人 Café dela Terra	人とつながる 自然を感じる スローなキャンドルナイト	15日	25
6	特定非営利活動法人 NPO カタリバ	キャリア教育～高校生を動機づける「ナナメの関係」を体験しよう～	16日	20
7	特定非営利活動法人 ビースウインズ・ジャパン	NPO 体験	16日	10
8	株式会社 オーク	はちみつプロジェクト	16日	4
9	公益社団法人 難民起業サポートファンド	マイクロファイナンスで、難民の社会起業!	16日	10
10	認定NPO 難民支援協会	難民と触れ合おう	16日	5
11	株式会社アットマーク・ラーニング	1日ボランティア体験 ～「親コーチング研修-親をわが子の学習支援者に-」のお手伝い～	16日	20
12	株式会社大地を守る会	100万人のキャンドルナイト@増上寺 2012の運営支援	16日	20
13	特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC)	知ろう×考えよう×つながろう～あなたが世界のためにできること～	16日	20
14	ユナイテッド・ビーブル株式会社	ドキュメンタリー映画「happy- しあわせを探すあなたへ」を 観て、幸せのヒントを探ろう	16日	20
15	国際青年環境 NGO A SEED JAPAN	ゴミゼロナビゲーション	2・3日	各10
16	株式会社マザーハウス	「バングラデシュのスタッフと一緒にデザインする」マザーハウスのバッグデザインイベント	16日	15
17	一般社団法人 ソーシャルビジネス・ネットワーク	一日ソーシャルアントレプレナー	16日	5
18	株式会社オルタナ	「エシカル」について考える ～昨日とは違うスイッチを探そう!～	16日	10
19	株式会社スワン	スワンから学ぶ! 障がい者との新しい生き方	18日	5
20	特定非営利活動法人キッズドア	子どもたちに楽しく勉強を教えよう!	24日	15
21	日本赤十字社 神奈川県支部	献血は愛のアクション! 献血活動に取り組もう	30日	20

3. 企業 CSR コース

	企業および団体名	プログラム名	実施日	募集人数
1	武田薬品工業株式会社	長期療養の子どもたちの支援を考える	9日	20
2	日野ハーモニー株式会社	障がい者雇用現場を知ろう!～オリエンテーション・見学・業務体験～	13・14日	各5
3	株式会社ウイニングコーポレーション	働くことは生きること～障がい者雇用企業の見学～	14・15日	各5
4	株式会社イオンフォレスト (THE BODY SHOP)	ハンドマッサージで心をつなぐ～高齢者とのケア交流	15日	11
5	株式会社 資生堂	ライフクオリティー メーカーシップ講座	16日	10
6	株式会社エイチ・アイ・エス	スタディーツアーのプランニング	5月30日 6月16日	40
7	株式会社 大川印刷	企業見学～印刷を通じて社会貢献～	18日	15
8	N E C (日本電気株式会社)	CSR 先進企業の哲学を学ぶ	20日	19
9	株式会社アイエスエフネットハーモニー	CSR 企業 アイエスエフネットハーモニー見学・体験プログラム	20日	20
10	千代田化工建設株式会社	プラント建設の CSR 活動	27日	20